

1. 建物概要

建物名称	令和6年度沼津市立第四小学校南西校舎改築に伴う新校舎建築主体工事	BEE	1.8	BEEランク	A	★★★★
------	----------------------------------	-----	-----	--------	---	------

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.8	/5	ふつつ 
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	2.8	/5	がんばろう 
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.4	/5	ふつつ 
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.8	/5	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上 
			がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目		
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.8	
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④過剰な設備設置をひかえ、躯体、仕上、配管の更新必要間隔が長い材料を採用した。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外部仕上等は、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑦建物外皮、設備システムは環境負荷が小さくなるよう配慮している。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪衛生機器は節水型を採用している。 ⑫躯体材料以外におけるリサイクル材の採用に配慮している。 ⑬有害物質を含まない材料の使用に努めるなどして環境への悪影響の低減を図っている。	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒	
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。 ⑮近くの気象台を用いて風向風速卓越風などの風環境を把握し、計画に配慮した。	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善	
	“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)		得点	2.8
		■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰設備地震対策が「ドライン」に沿った支持方法としている	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.4	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ㉑空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間とするとともに将来の変化にも対応できるよう配慮している。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	ユニバーサルデザイン計画 階高のゆとり 空間の形状・自由さ	
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1 ㉒	㉒ 地域性への配慮、快適性の向上	
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.8	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外部仕上等は、周辺の街並みや風景にバランスよく調和させている。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。	Q-3 1 2 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ㉓ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。 ⑮近くの気象台を用いて風向風速卓越風などの風環境を把握し、計画に配慮した。	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善	